

中 学 校

平成 2 4 年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I 研究の概要

1 研究主題決定の理由	1
2 研究の視点	1
3 研究構想図	2

II 研究の内容

1 基礎研究	3
2 調査研究	4
3 開発研究	6
(1) 思考・判断・表現する学習活動の工夫	
ア 知覚・感受を支えとして思考を深める学習活動	
イ イメージや表現意図をもつために判断する学習活動	
ウ 必要な技能を身に付け表現する学習活動	
(2) 主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫	
ア 生徒の学習状況を判断する際の目安	
イ 生徒に実現目標や実現状況を認識させるワークシート	
ウ 学習状況に応じた指導	
4 実践事例	9
実践事例①	9
実践事例②	12
実践事例③	15
実践事例④	18
5 学習指導要領の指導事項と指導する〔共通事項〕を見通した3年間の指導計画の作成	21

III 研究の成果と課題	24
--------------	----

研究主題

「生徒が自ら音や音楽のよさを感じ取り、表現するための指導及び評価の工夫」

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

平成20年1月の中央教育審議会の答申では、音楽科の改善の基本方針として、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成することが重視されている。そのため、表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断・表現する力の育成を一層重視している。

また、平成22年3月に中央教育審議会初等教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」がとりまとめられ、学習評価の改善に係る基本的な考え方として、目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価の確実な実施を示している。

本研究員は、生徒が自ら音楽表現に対する自己のイメージを具体化し、表現意図をもち、音楽表現に結び付けるために技能を獲得し、表現につなげるための学習活動に課題意識をもっていた。

また、指導と評価の在り方については、学習のねらいが達成された際の、生徒の具体的な学習状況を予想していなかったため、学習状況に応じた指導が曖昧になっていた。そして、生徒へも、授業の目標を実現するための具体的な視点や目安を示していないため、思考・判断・表現する手だてや見通しを十分にもたせることができていなかった。

そこで、研究主題を「生徒が自ら音や音楽のよさを感じ取り、表現するための指導及び評価の工夫」と設定し、生徒に音や音楽のよさを感じ取り、感じ取ったことを基に音楽に対するイメージや表現意図をもたせ、音楽表現するために必要な技能を獲得させるための、思考・判断・表現の過程における指導の在り方を研究することとした。そして、教師が事前に生徒の学習状況を具体的に予想し、学習状況に応じた具体的な指導を考えるとともに、生徒自身も、学習のねらいの実現に向けて、自己の目指す学習状況の目安が分かり、主体的に授業に臨むことができる指導と評価の在り方についても研究することとした。

さらに、生徒が主体的に学習する力を身に付けるためには、3年間を見通した指導計画を作成し、指導の見通しを立てておく必要がある。そこで、3年間を通じて共通事項や学習活動を有機的かつ効果的に関連させ、学習内容の構成や配列等に配慮した年間指導計画について研究することとした。

2 研究の視点

生徒にイメージや表現意図をもたせ、主体的に表現させるための指導及び評価の工夫について「思考・判断・表現する学習活動の工夫」と「主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫」の二つの視点から考察し、効果的な指導及び評価の方法について検証授業による実践研究を通して明らかにする。

3 研究構想図

共通研究テーマ「新学習指導要領に対応した授業の在り方」



音楽科に求められていること

- ・音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付け、思いや意図をもって、歌唱、器楽、創作で表現する力を育成する。
- ・音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力を一層重視する。

指導上の課題

- ・音楽で表現するために、自分なりのイメージや表現意図をもたせるための指導の工夫
- ・一人一人の生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導と評価の工夫

研究の視点

生徒にイメージや表現意図をもたせ、主体的に表現させるための指導及び評価の工夫を「思考・判断・表現する学習活動の工夫」と「主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫」の二つと捉え、効果的な指導及び評価の方法について検証授業による実践研究を通して明らかにする。

研究主題

生徒が自ら音や音楽のよさを感じ取り、表現するための指導及び評価の工夫



研究の仮説

生徒がイメージや表現意図をもち、表現するために思考・判断・表現する学習活動を工夫し、主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫をすることにより、生徒が自ら音や音楽のよさを感じ取り、表現できるようになるだろう。



目指す生徒像

自ら音や音楽のよさを感じ取り表現する生徒

研究の内容

1 基礎研究

- ・文献研究
- ・先行研究の考察とまとめ
- ・本研究における「生徒が音や音楽のよさを感じ取り表現する」「生徒が自ら表現するための指導及び評価の工夫」についての整理

2 調査研究

対象：所属校、およびその地区における公立中学校
音楽科教員へのアンケート調査

項目①イメージや表現意図をもたせるための指導について
②評価方法や学習状況に応じた指導について

3 開發研究

視点(1) 思考・判断・表現する学習活動の工夫

- 知覚・感受を支えとして思考を深める学習活動
イメージや表現意図をもつために判断する学習活動
必要な技能を身に付け表現する学習活動

視点(2) 主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫

- ア 生徒の学習状況を判断する際の目安
イ 生徒に実現目標や実現状況を認識させるワークシート
ウ 生徒の学習状況に応じた指導

- | | | | | |
|---|-----------------|---------|---------|------|
| 4 | 検証授業①：A表現（1）歌唱ウ | | ：視点（1）ア | （2）ア |
| | 検証授業②：A表現（1）歌唱ア | B鑑賞（1）ア | ：視点（1）イ | （2）イ |
| | 検証授業③：A表現（2）器楽イ | B鑑賞（1）イ | ：視点（1）ウ | （2）ウ |
| | 検証授業④：A表現（3）創作ア | | ：視点（1）イ | （2）イ |

5 学習指導要領の指導事項と指導する「共通事項」を見通した3年間の指導計画の作成

Ⅱ 研究の内容

学習指導要領解説音楽編を基に、研究主題について次のようにまとめた。

1 基礎研究

(1) 「生徒が音や音楽のよさを感じ取り表現する」ということ

① 「音や音楽のよさを感じ取る」ということ

音楽は、音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの要素によって形づくられており、それらは有機的に関連し合っている。表現領域の学習において、音や音楽のよさを感じ取るためには、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連等、音楽の構造を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受することが大切である。音楽を形づくっている要素のうち、どのような要素を知覚し、その働きによってどのような特質や雰囲気を感じ受けたかという思考を繰り返すことによって、生徒の感じ取った内容が質的に深まり、イメージや感情が広がる。

こうした学習を積み重ねることによって、生徒は音や音楽のよさを感じ取ったことを基に判断し、音楽に対するイメージや表現意図をもち、音楽表現を工夫する活動へとつながっていく。

② 「表現する」ということ

生徒が感じ取ったことを声や楽器、楽譜などを使って表現するためには、技能が必要である。発声や発音、楽器の奏法、音楽をつくる技能などを獲得し、音楽に対するイメージや曲想を適切に表現することが重要となる。また、身体をコントロールし、姿勢、呼吸法、身体の動きなどを意識することも大切である。

そこで、「生徒が音や音楽のよさを感じ取り表現する」ために、次の視点について研究することとした。

—思考・判断・表現するための学習活動の工夫—

- ア 知覚・感受を支えとして思考を深める学習活動
- イ イメージや表現意図をもつために判断する学習活動
- ウ 技能を身に付け表現する学習活動

(2) 「生徒が自ら表現するための指導及び評価の工夫」について

生徒が自ら表現する力を育成するために、教師は学習のねらいを明確にし、生徒の学習状況として学習のねらいが実現された状態を具体的に想定しておく必要がある。

また、あらかじめ、生徒に学習のねらいを意識化させたり、学習の終わりには、学習のねらいについて自己の実現状況について認識させたりすることが大切である。教師が生徒の学習状況に応じた指導をしていくことにより、生徒は自ら表現する力を高めていくことができる考える。

そこで、「生徒が自ら表現するための指導及び評価の工夫」として、次についての視点において研究することとした。

—主体的に学習に取り組ませるための指導と評価の工夫—

- ア 生徒の学習状況を判断する際の目安の設定
- イ 生徒に実現目標や実現状況を認識させるワークシート
- ウ 生徒の学習状況に応じた指導

2 調査研究

(1) 調査概要

- ア ね ら い 研究内容に関する指導の実態を把握し、効果的な指導の在り方を明らかにする。
- イ 調査時期 平成24年9月
- ウ 調査対象 都内3区2市117校における公立中学校音楽科担当教員（回答数85名）
- エ 調査方法 選択式によるアンケート用紙への回答
- オ 調査項目

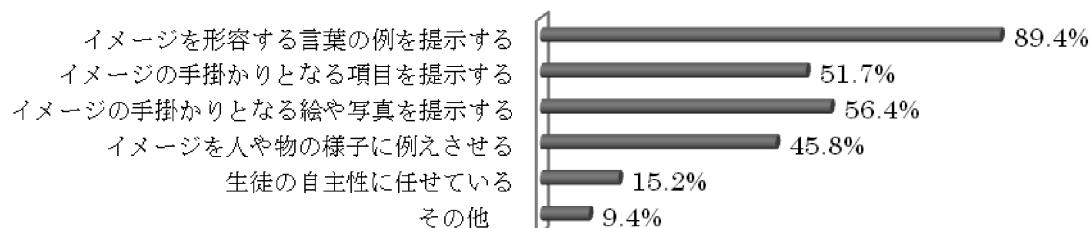
- | | |
|--------------------------|---------|
| ○ 思考・判断・表現させるための指導について | 調査項目①② |
| ○ 各評価の観点における評価方法について | 調査項目③④⑤ |
| ○ 学習状況の把握と学習状況に応じた指導について | 調査項目⑥⑦ |

(2) 調査結果と考察

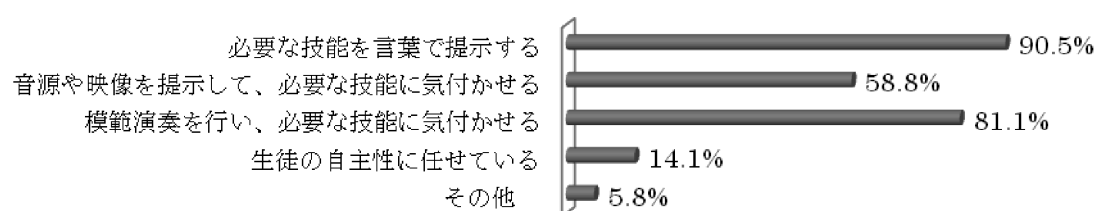
【調査項目①②：思考、判断、表現させるための指導について】

① 音楽によって喚起されるイメージをもたせるためにどのような指導を行いますか。

(複数回答可)



② 音楽表現を工夫させるために、どのような指導を行いますか。(複数回答可)



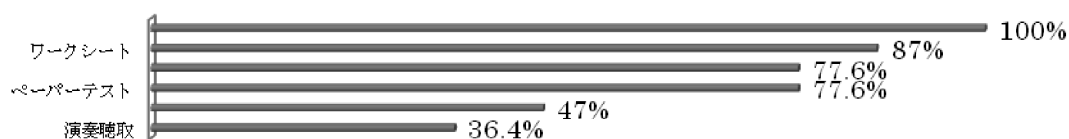
調査項目①②から、イメージをもたせたり、音楽表現の工夫をさせたりするための指導の工夫として、「イメージを形容する言葉の例を提示する」や「必要な技能を言葉で提示する」、「模範演奏を行い必要な技能に気付かせる」と回答した教員の割合は9割近かった。教師は学習に必要な言葉を生徒に提示し、その言葉を基に思考・判断・表現させる指導を行っていることが分かった。

一方で、「イメージの手掛かりとなる項目を提示する」や「音源や映像を提示して、必要な技能に気付かせる」等、生徒に自らイメージさせたり必要な技能を身に付ける方法に気付かせたりするための指導の工夫をしていると回答した教員の割合は、いずれも6割に達していない。

このことから、生徒自らが思考・判断・表現するための手掛かりを示す等、気付かせるための指導を工夫する必要があると考えた。

【調査項目③④⑤：各評価の観点における評価方法について】

③ 観点ア「音楽への関心・意欲・態度」の評価方法はどのように設定していますか。
(複数回答可)



④ 観点イ「音楽表現の創意工夫」の評価方法はどのように設定していますか。(複数回答可)



⑤ 観点ウ「音楽表現の技能」の評価方法はどのように設定していますか。(複数回答可)



調査項目③より、観点アの評価については、「観察」で評価する教員が100%であった。

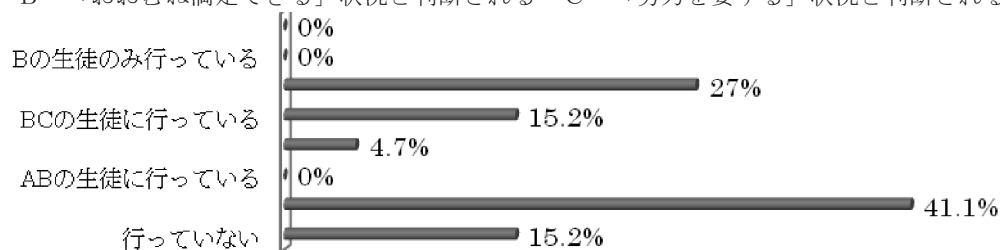
調査項目④より、観点イの評価については、「ペーパーテスト」、「技能テスト」で評価する教師が多いことが分かった。

調査項目⑤より、観点ウの評価方法については、「技能テスト」が100%の回答を得ている。

このことから、観点イ、ウの評価をする際には、授業中の生徒の様子を評価し、指導に生かしていく形成的評価を行う必要があると考えた。

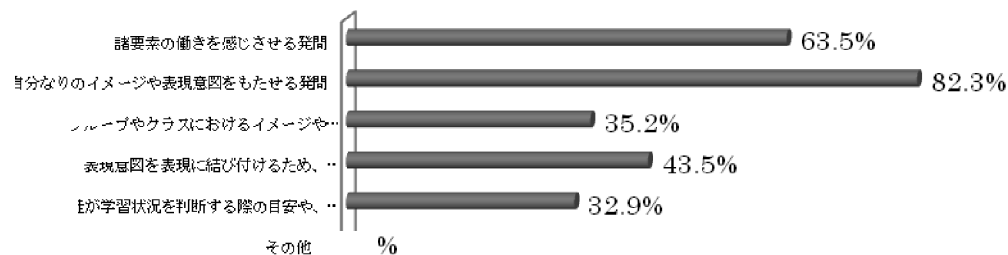
【調査項目⑥⑦：学習状況の把握と学習状況に応じた指導について】

⑥ 学習状況に応じて指導を行っていますか。(A = 「十分に満足できる」状況と判断される
B = 「おおむね満足できる」状況と判断される C = 「努力を要する」状況と判断される)



調査項目⑥より、「ABC全ての生徒に行っている」と選択した教員は約4割であったが、「Cの生徒のみに行っている」と選択した教員も約3割であった。このことから、全ての生徒の学習が充実するために、一人一人の生徒の状況に応じた指導の工夫が必要であると考えた。

⑦ 表現領域のワークシートでは、どのような発問を設定していますか。(複数回答可)



調査項目⑦より、表現領域のワークシートにおいて、「諸要素の働きを感じさせる」、「自分なりのイメージや表現意図をもたせる」発問を設定している教員はいずれも6割以上であった。しかし、「生徒が学習状況を判断する際の目安や自己の学習状況を認識できる」発問を設定している教員は約3割であった。

このことから、生徒が学習のねらいに即した実現状況を振り返り、自らの学習状況を把握できるワークシートの発問の設定をすることは、生徒自身の次の授業への具体的な目標につながると考えた。

3 開発研究

基礎研究及び調査研究を踏まえて、次に示す学習活動の工夫、指導と評価の工夫を考えた。

(1) 思考・判断・表現する学習活動の工夫

ア 知覚・感受を支えとして思考を深める学習活動

教師は、生徒に音楽を形づくっている要素の働きを知覚させ、要素の働きによって生み出される特質や雰囲気を感じさせるために繰り返し思考させる学習活動の工夫を行うことが大切である。

【旋律を知覚・感受し思考を深めるための学習活動の例】

思考の視点	知覚する学習活動	感受する学習活動	指導の手順
音のつながり方	○ 音楽を聴いたり楽譜を見たりして、跳躍や順次進行等の音のつながりに気付く。	① 示された視点を参考に、音楽の特質や雰囲気から情景、状況や状態、心情等を想起する。 視点の例 - 季節、時間、天気、色、大きさ等の情景や状態 - 登場する人や動物等の様子や心情 文型の例 ～が〇〇しているようだ。 ※ 生徒が要素の働きを十分に知覚・感受できない場合、以下の指導の工夫を行う。 ② 言葉の例から、感じ取った音楽の特質や雰囲気に合う言葉を選ぶ。 言葉の例 弾んだ、颯爽とした、激しい、明るい、暗い、嬉しい	① 焦点を当てる要素を絞る。
旋律のもつ方向性	○ 楽譜の音符に線を引いてつなぎ、旋律のもつ方向性を考える。		② 要素の働きの特徴的な部分を知覚・感受させる。
フレーズ	○ 歌やリコーダー等の演奏を通してプレスに着目し、フレーズの区切りを考える。 ○ 「ホップ、ステップ、ジャンプ」に例えてフレーズのまとまりの変化を捉える。		③ 思考させるための視点を示す。
旋律に基づくところの音階	○ 楽譜の中に出てくる音の種類に印を付け、沖縄音階の構成音に気付く。		④ 言葉の例を示す。
調	○ 長調と短調の音と音の幅に着目する。		

イ イメージや表現意図をもつために判断する学習活動

教師は、生徒に知覚・感受したことを基に、どのような音楽を表現したいか判断させる指導を工夫し、音楽表現に対するイメージや表現意図をもたせるように学習活動を工夫することが大切である。

【イメージや表現意図をもつ学習活動の例（ワークシートより）】

題名にそって、どのような音楽をつくりたいか、音楽の流れをイメージしましょう。			
	初め		終わり
旋律			
リズム	はやい	ゆっくり	少し速い
イメージ	飛行機から降りて 沖縄の音楽が聞こえる	温かい感じ	祭りの音が 少し聞こえる
			さらに速くなり 滑りながら終わる
			楽しくてワクワクするが 旅の疲れが出て眠くなる

表現したいイメージを記入し、表現意図に結び付けるために、図形楽譜や言葉で書かせる。

ウ 必要な技能を身に付け表現する学習活動

教師は、生徒が思いや意図を音楽表現に結び付けるために、音楽を形づくっている要素の特徴が現れている部分に着目させる。次に、表現に必要な技能を指導し、技能の習得に必要な身体の使い方を意識させる。そして、技能を身に付けるための学習活動の時間を確保し、その過程で適切な指導を行うことが大切である。

【必要な技能を身に付け表現する学習活動の例】

教師の指導	生徒の学習活動
① 音楽を形づくっている要素の特徴が現れている部分に着目させる。	・付点のリズム ・跳躍する旋律 などに着目する。
② 音楽表現に必要な技能を指導し、技能の習得に必要な身体の使い方を意識付ける。	・アーティキュレーションについて理解し、息の使い方、タンギング等、身体の使い方の工夫が必要であることを知る。
③ 技能を身に付けるための学習活動の時間を確保する。	・既習曲で学習した奏法や音楽を振り返って表現に生かす。 ・音源や映像から奏法や身体の使い方に注目して、表現に生かす。 ・教師の演奏例から、自分の表現と比較して表現に生かす。

(2) 主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫

ア 生徒の学習状況を判断する際の目安の設定

学習指導を行う際、評価基準を基に、教師は生徒の予想される具体的な学習状況の目安を設定しておくことが大切である。具体的な学習状況を予想しておくことは、学習状況に応じた的確な指導へとつながっていく。

イ 生徒に実現目標や実現状況を認識させるワークシート

生徒は、授業のねらいを実現するために、どの程度の学習状況を目指せばよいのか、具体的な実現目標や学習方法、手順等が分かることにより、主体的に学習に取り組むことができる。そして学習の最後に、ねらいの実現状況を生徒自ら振り返ることにより、自分の学習状況を把握し、次の学習の見通しをもつことができる。

教師は、ワークシート等で生徒の実現状況を確認することにより、一人一人に応じた次時の指導に生かすことができる。

ウ 生徒の学習状況に応じた指導の工夫

生徒の学習状況に応じて適切な指導を行うことは、生徒が主体的に学習に取り組むことにつながるとともに、一人一人の能力を引き出すことにもつながっていく。

【学習状況に応じた指導の工夫の例】

評価基準：沖縄音楽のリズムや旋律の特徴を生かしてどのような音楽をつくりたいか思いや意図をもっている。(観点イー②)			
	判断するポイント	指導内容	指導の例
状況 十分満足できる (A)	・沖縄音楽の音階やリズムの特徴を生かして、自分なりの思いや意図とその理由を明確に記述し、具体的な発言をしている。	役割を与える	グループにおけるリーダー役を与え、意見をまとめる際のポイントについてリーダー同士で話し合わせたり、教師が確認したりする。
		紹介する	ワークシートの記述や発言の内容のよいところを具体的に認め、他の生徒に紹介する。
状況 おおむね満足 (B)	・沖縄音楽の音階やリズムの特徴について、感じ取ったことに触れながら、自分なりの思いや意図を記述している。	広げる	グループの他の生徒と、イメージや表現意図に合った音楽を創作できているか、話し合ったり音を出し合ったりしながら意見を出し合い、参考にしていくよう指導する。
		深める	始まる、つながる、終わるなどの音のつながり方について、キーボードで演奏しながら表現意図を確認していくように指導する。
状況 努力を要する (C)	・沖縄音楽の音階やリズムの特徴と関連付けたイメージや表現意図をもつことができていない。	提示する	グループや学級で他の生徒のイメージや表現意図を提示して、沖縄音楽の音階やリズムの特徴を確認し、自分のイメージや表現意図をもたせる。
		比較・選択させる	言葉の例示をし、言葉と表現意図を結び付けるために、一緒に手拍子したりハンドサインで表したりする中から、自分の表現したいイメージと合う言葉を選択させる。

4 実践事例

実践事例①

研究の視点：(1) ア (2) ア 【A表現(1)歌唱 ウ 第3学年】

1 題材名「声部の役割を理解し、旋律の特徴を感じ取り表現しよう」(5時間扱い)

〔共通事項〕旋律、テクスチャ、強弱

2 題材の目標

- (1)「ヒカリ」の三部合唱における声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する学習に主体的に取り組む。
- (2)旋律の特徴やテクスチャ、強弱を知覚しながら構造を捉え、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、音楽表現についての表現意図をもち、音楽表現を創意工夫する。
- (3)声部の役割と全体の響きとの関わりや旋律の特徴を生かした音楽表現にするために、声の音色、発音、呼吸法など、表現するために必要な技能を身に付けて歌う。

3 教材名 混声三部合唱「ヒカリ」(瀬戸 沙織 作詞／松下 耕 作曲)

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
① 旋律の特徴や声部の重なり合う響きの美しさに関心をもっている。 ② 声部の重なり的美しさを生かし、曲想にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	① 旋律、テクスチャ、強弱に着目し、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解している。 ② 旋律、テクスチャ、強弱を知覚・感受したことを基に、表現を工夫し、どのように歌うか思いや意図をもっている。	① 声部の役割や全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な声の音色、発音、呼吸法を身に付けて歌っている。

5 題材観

本題材は、学習指導要領第2学年及び第3学年の内容A表現(1)歌唱ウ「声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」を実現するための題材である。「自分のパートや他のパートはどのようなポジションにあってどんな役割をしているのか」を知覚・感受し、音楽の構造を捉え、全体の響きとの関わりを感じ取ったり、旋律の特徴を生かして表現したりする学習をねらいとした。

6 本題材における具体的な指導の工夫

(1) 思考・判断・表現する学習活動の工夫

ア 知覚・感受を支えとして思考が深まっていく学習活動

声部の役割をキーワードカードとして黒板に提示し、生徒が自ら思考するように工夫する。

(2) 主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫

ア 生徒の学習状況を判断する際の目安

学習のねらいが実現された際の、生徒の具体的な学習状況の視点を事前に設定し、実現に向けての発問や指示の工夫を行う。

7 指導計画と評価の計画

	ねらい	学習内容・【評価】	指導の工夫
第1時	曲想を感じ取り、声部が重なり合う響きの美しさに関心をもつ。	声部の重なりに関心をもちながら主旋律を確認しながら歌う。 【観点ア① 観察】	旋律の特徴に着目して聴いたり歌ったりさせる。
第2時	旋律の特徴やテクスチュア、強弱を知覚・感受する。	旋律の特徴やテクスチュア、強弱を知覚・感受して自分のパートを歌唱する。 【観点イ① 観察】	声部の役割について、キーワードカードで提示する。
第3時 (本時)	声部の役割を理解し、音楽表現の工夫について思いや意図をもつ。	声部の役割を理解し、表現の工夫について、ワークシートに記入して、話し合ったり歌ったりしながら思いや意図をもつ。 【観点イ② ワークシート 観察】	表現の工夫について、キーワードカードで提示する。
第4時	曲想を生かした音楽表現を追求し、思いや意図をもって歌う。	互いのパートの歌声を聴きながら、声の音色や言葉の発音を工夫して歌う。【観点ウ① 観察】	声の音色や言葉の発問の仕方を工夫するための手立てを教師が範唱して考えさせる。
第5時	変化する声部の役割と全体の響きとの関わりを生かして、表現を工夫しながら歌唱する。	声部の役割を生かした表現の工夫を確認しながら歌う。 【観点ア② 観察・ワークシート】 【観点ウ① 観察】	主旋律を歌っているパートを意識しながら、全体の響きを考えて歌うようにする。

8 本時の展開（全5時間中の3時間目）

ア 本時の目標 声部の役割を知覚・感受し、音楽表現の工夫について思いや意図をもつ。

イ 本時における生徒の学習状況を判断するポイント

学習状況 評価規準	A：「十分に満足できる」 状況と判断する例	B：「おおむね満足できる」 状況と判断する例	C：「努力を要する」 状況と判断する例
【観点イ】 旋律、テクスチュア、強弱を知覚・感受したことを基に、表現を工夫し、どのように歌うのか思いや意図をもっている。	<ワークシートにて> 声部の役割について理解し、どのように歌うかについて思いや意図を具体的にもっている。 ●判断するポイント ・【A】と【C】の部分の自分のパートの役割を理解し、どのように歌うか、旋律の特徴を捉えて強弱の工夫を具体的に記入している。 【記入例】 ・【C】の部分は、メロディーを追い掛けているように重なっている、主旋律の声の響きや強さをよく聴き、受け取るように歌う。 <観察にて> 声部の役割から考えられる表現意図について積極的に話し合ったり具体的に工夫したりしている。 ●判断するポイント ・声部の役割の変化に応じて歌い方を工夫し、話し合いの意見を分類したり整理したりしてまとめながら、繰り返し歌っている。	<ワークシートにて> 声部の役割について理解し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ●判断するポイント ・【A】と【C】の部分の自分の歌うパートの役割を理解し、どのように歌うのか記入している。 【記入例】 ・【C】の部分はメロディーを担当するので、しっかり歌う。 <観察にて> 声部の役割から考えられる表現意図について、他の意見を参考にしながら話し合ったり工夫したりしている。 ●判断するポイント ・実際に歌ったり、声に出したりして比較しながら考え、話し合っている。	<ワークシートにて> 声部の役割があいまいで、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができない。 ●判断するポイント ・声部の役割が記入できない。 【記入例】 ・大きな声で歌う。 <観察にて> 声部の役割から考えられる思いや意図をもつことができない。 ●判断するポイント ・歌い方に変化がなく、話し合いに参加していない。

ウ 本時の展開

	○学習内容・学習活動	◇指導上の留意点【評価規準】・(評価方法)
導入	○要素の役割を想起する。 ・前時に着目した要素を想起しながら「ヒカリ」を歌う。 ・本時の学習のねらいを知る。	◇前時に着目した要素（旋律・テクスチャ、強弱）を確認させる。
展開	声部の役割を知覚・感受し、音楽表現の工夫について思いや意図をもちましょう。 ○声部の役割の確認 ・声部の役割にはどんな種類があるのか、考え方を確認する。 ・既習曲「フェニックス」のCDの一部分を聴き、キーワードカードを基に声部の役割の考え方を確認する。 ○声部の役割を考える。 ・「ヒカリ」のAとCの部分に着目し、楽譜を見て音楽を聴いたり歌ったりしながら、自分の担当している声部の役割はどうなっているのか、ワークシートに書く。 ○表現の工夫について思いや意図をもつ。 ・声部の役割を生かすための表現について思いや意図をもつ。 ・自分の思いをワークシートに記入する。 ・ワークシートに記入した内容を基に、グループで話し合ったり歌ったりしながら表現の工夫について考える。 ・話し合った内容を生かして合唱する。	◇声部の役割を書いたキーワードカード①（主旋律・主旋律を支える、主旋律を追い掛ける、主旋律を飾る）などを書いたキーワードカードを黒板に提示し、声部の役割について確認させる。 ◇主旋律に着目させ、自分の担当しているパートはどのようなになっているのか考えさせる。 ◇各パートの声部の役割を全体で確認させる。 ◇教師がキーワードカードを基にヒントを助言して気付かせたり、正しく記入できている生徒に発表させたりして全員共通で役割を整理、確認させる。 【観点イ②】（ワークシート） ◇表現を工夫するキーワードカード②（声の音色、言葉の発音）などを黒板に提示し、考えるきっかけを与える。  主旋律を歌っているパートはどこでしょう。 キーワードカードを参考にして、自分のパートはどの役割になるか考えましょう。 ◇表現の工夫について思いや意図をもたせるために各グループの話し合いに助言を行う。 ◇声部の役割を意識しながら合唱させる。 【観点イ②】（観察）
まとめ	○本時の学習内容を振り返る。	◇本時のねらいについて、振り返る。 ・声部の役割を理解できたか。 ・表現の工夫について思いや意図をもてたか。

※ 生徒の変容

視点（１）イ 知覚・感受したことを基に、表現の工夫について思いや意図をもつ学習活動についてキーワードカードを提示することにより、声部の役割や表現の工夫について、具体的にワークシートに記入できた。

（生徒A）

Aの声部の役割（全てのパートが主旋律）

→役割から考えられる表現： はっきり発音する。

Cの声部の役割（主旋律の女声を男声が追い掛ける。）

→役割から考えられる表現： 主旋律が浮き立つようにやわらかい声で、歌を受け取るように歌う。

（生徒B）

Aの声部の役割（主旋律）

→役割から考えられる表現： 発音を一つ一つはっきりするように歌う。

Cの声部の役割（ソプラノが主旋律）

→役割から考えられる表現： ソプラノの主旋律を男声が追い掛けているので、旋律をリズムよくタイミングよく流れるように歌う。

実践事例②

研究の視点（１）イ （２）イ【A 表現（１）歌唱 ア B 鑑賞（１）ア 第１学年】

１ 題材名「歌詞の内容や曲想を感じ取り、旋律や強弱を生かした表現を工夫しよう」

（４時間扱い）〔共通事項〕強弱、旋律

２ 題材の目標

- （１）我が国の自然の美しさや強弱と旋律の働きを曲想にふさわしい思いや意図をもって表現できるよう工夫する。
- （２）強弱と旋律の働きや構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして音楽のよさや美しさを味わう。

３ 教材名

鑑賞曲「海」（パルムグレン） 歌唱曲「浜辺の歌」（成田為三 作詞 林 古溪 作曲）

４ 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①旋律や強弱と曲想との関わりに関心を持ち、主体的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。 ②我が国の自然や日本語の美しさを感じ取り、歌詞の内容や情景、曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①歌詞の内容や強弱・旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ②歌詞の内容や曲想を感じ取ったことを基に、音楽表現を工夫し、どのように歌うのか思いや意図をもっている。	①歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために発声、発音、呼吸法、身体の使い方などを身に付けて歌っている。	①旋律・強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、強弱・旋律の働きや構造と曲想との関わりを感じ取って解釈したり価値付けを考えたりし、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

５ 題材観

本題材は、学習指導要領第１学年の内容 A 表現（１）歌唱ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。」を実現するための題材である。歌詞の内容から我が国の自然や日本語の美しさを感じ取る。また、指揮などの身体表現活動（学習指導要領「内容の取扱いと指導上の配慮事項」ウ（６）「指揮は主体的に音楽を表現する手段の一つとして意味のある活動」とある。）から、音楽に合わせて指揮のように身体を動かして曲想を体で感受するとともに、フレーズの特徴を生かして音楽に表現を工夫する学習をねらいとした。

６ 本題材における具体的な指導の工夫

（１）思考・判断・表現する学習活動の工夫

イ イメージや表現意図をもたせるために判断する学習活動

指揮をしながら曲想を感受し、言葉で表すために、キーワードカードの提示や、イメージを形容する言葉の例（ヒントカード）を提示する。

（２）主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫

イ 生徒に実現目標や実現状況を認識させるワークシート

生徒に本時の実現目標を授業のはじめに示すことで、学習活動の見通しをもたせる。
また、授業の最後に実現状況を振り返らせることにより、自己の実現状況を認識させる。

7 指導計画

	ねらい	学習内容・【評価】	指導の工夫
第1時	旋律と強弱の特徴とそれらの働きが生み出す特質や雰囲気に関心を持ち、主体的に鑑賞する。	旋律や強弱の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気に着目しながら「海」を鑑賞する。 指揮をしながら、感じ取ったことを自分なりの言葉で説明する。 【観点ア① 観察 エ ワークシート】	音楽に合わせて指揮をして、旋律や強弱の特徴を知覚・感受する。 具体的なイメージとその根拠を言葉にするためのキーワードカードを提示する。
第2時 (本時)	「浜辺の歌」の歌詞の内容や曲想に関心を持ち、旋律や強弱の特徴やそれらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。	歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽に合わせて指揮をしながら旋律や強弱を知覚・感受する。 【観点ア②、イ① 観察、ワークシート】	歌詞の内容や旋律の特徴や強弱の変化に関心をもたせる。 旋律の特徴や強弱を感じ取ることができるよう、指揮をさせたりキーワードカードやヒントカードを提示したりする。
第3時	感じ取ったことを基に音楽表現を創意工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。	感じ取ったことを基にどのように表現するかグループで話し合い、試行錯誤しながら表現を工夫し、ワークシートに思いや意図を記入する。 【観点イ② 観察、ワークシート】	感じ取ったことを基に思いや意図をもたせるために、音楽表現に必要な技能として、呼吸法、発声をキーワードカードで提示し、表現の創意工夫をさせる。
第4時	曲にふさわしい音楽表現で「浜辺の歌」を歌唱する。	思いや意図を歌唱表現できるよう技能呼吸法や発声を追及して表現する。各グループ歌唱を聴き合い、よさを味わう。 【観点ウ 観察、演奏聴取】	どのように歌うか思いや意図を音楽表現に生かすことができているか、確認しながら歌わせるようにする。

8 本時の展開 (全4時間中の2時間目)

ア 本時の目標 「浜辺の歌」の歌詞の内容や曲想に関心を持ち、旋律や強弱の特徴やそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。

イ 本時の展開

	○学習内容・学習活動	◇指導上の留意点 【評価規準】・(評価方法)
導入	○「海」の音楽に合わせて指揮をする。 ・本時のねらいを知る。 「浜辺の歌」の歌詞の内容に関心を持ち、旋律や強弱の特徴を感じ取りましょう。	◇音楽に合わせて指揮をしながら、曲想を想起させる。 ◇本時のねらいの達成に向けた具体的な目標を提示する。
展開	・「浜辺の歌」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。 ○歌詞の内容や旋律、強弱の特徴を知覚・感受する。 歌詞の内容や旋律の特徴から、曲の雰囲気を感じ取りましょう。 ○「浜辺の歌」の歌唱を通して知覚・感受を深める。 ・歌詞の内容を考えながら歌い、旋律や強弱の特徴を捉える。	◇範唱を聴き、感じたことを自由に話し合う。【観点ア② 観察】 ◇音楽に合わせて指揮をしながら、旋律や強弱の特徴を知覚する。 ◇歌詞を音読したり歌ったりして歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気を感じ取らせる。【観点イ①：ワークシート・観察】 ー旋律や強弱の特徴を感じ取るキーワードカードー 情景 季節 天気 時間 場所 心情 浜辺に対する気持ち ◇歌詞の内容と旋律や強弱の特徴を結び付けて知覚・感受させる。 ◇感じ取ったことを楽譜に記入し、グループで伝え合い、他の生徒のよい意見を取り入れて、色鉛筆を使って書き加えさせる。
まとめ	○本時の学習活動を振り返る。	◇ 本時のねらいについての学習状況を振り返るようにする。 ・ワークシートの学習の振り返り欄に記入させる。

9 ワークシートによる学習のねらいと実現目標の提示と学習の振り返り

学習活動を始める前 生徒に学習のねらいと実現目標を示す。

学習のねらい： 「浜辺の歌」の歌詞の内容に関心を持ち、旋律や強弱の特徴を感じ取る。

実現目標：①「浜辺の歌」の情景や様子を思い浮かべることができる。

② 旋律や強弱の特徴を聴き取ることができる。

今日は、「浜辺の歌」について、指揮をしながら聴いたり歌ったりして旋律や強弱の特徴を感じ取ったり、情景や様子を思い浮かべたりしましょう。

授業中 諸要素の働きに着目させる。

次は（旋律）や（強弱）を意識して聴いてみよう
【自分の意見】

要素① （旋律）	要素② （強弱）
情景や様子を思い浮かべましょう。 いつも一定の動きをしている波がある おくのうに流れよう 音のつながり方を聴き取りましょう。 同じ動きをくりかえし、ずっとと ぎれない	情景や様子を思い浮かべましょう。岩の上にせまくなる 荒い水もタタいてもりや雨、空気が？ とんどん強くなりながらどるでる。暗い 強弱の変化の仕方を聴き取りましょう。 波がなぐときは弱く 波が高くなるほど強くなる



指揮をしながら旋律や強弱の特徴を知覚する。



－指導の工夫例－

感受の手掛かりとなる言葉の例（ゆっくりとした波、さらさらとした砂 等）のヒントカードを提示する。

授業のまとめ 生徒自身が学習状況を把握する。

情景や様子を思い浮かべることができた ☐ 要素①②共に思い浮かべることができた

☐ 要素①②どちらか一方は思い浮かべることができた

要素①「旋律」や要素②「強弱」の特徴を聴き取ることができた ☐ 思い浮かべることが難しかった

☐ 要素①②共に聴き取ることができた

☐ 要素①②どちらか一方は聴き取ることができた

☐ 聴き取ることは難しかった

感想 海という題名が広い範囲のことを言っているから、色々な事を想像できた。他の人の感じ方のちがいが、おもしろかった。

－「十分満足できる」と判断される状況（A）への指導例－
・意図的指名を行い、記入内容の価値付けを行う。

教師：次の時間の指導へ生かす。

生徒：次の授業の見通しをもつ。

※ 生徒の変容

- ① 音楽に合わせて指揮をすることにより、旋律や強弱の働きを感受できるようになった。また、イメージの手掛かりとなる項目をキーワードカードや言葉の例をヒントカードとして提示することにより、イメージを言葉で表す際の語彙が増えたりして、思い描いていることを言葉で表し、伝え合う喜びを感じている様子が見られた。
- ② 本時の実現目標と、学習状況を判断する目安を明確にすることで、生徒自身が学習活動の見通しをもつことができた。また、教師も生徒の学習状況を把握し、一人一人に応じた指導の充実を図ることができた。

実践事例③

研究の視点（１）ウ （２）ウ【A表現（２）器楽 イ B鑑賞（１）鑑賞 イ 第３学年】

1 題材名「曲にふさわしい表現を追求しよう」（４時間扱い）

〔共通事項〕リズム、旋律

2 題材の目標

- (1) オペラの特徴に関心をもち、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、主体的に演奏したり鑑賞したりする。
- (2) 曲にふさわしいアルトリコーダーの奏法、身体の使い方などを追求し、創意工夫して演奏する。
- (3) オペラの特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、オペラの魅力やよさを味わって鑑賞する。

3 教材名 歌劇「アイーダ」（ヴェルディ作曲）

4 題材の評価規準

ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①オペラの特徴に関心 をもち、鑑賞をする 学習に主体的に取り 組もうとしている。 (鑑賞) ②曲にふさわしいアル トリコーダーの奏法 などに関心をもち、 それらを生かして演 奏する学習に主体的 に取り組もうとして いる。(器楽)	①リズム、旋律を知覚し、 それらの働きが生み出 す特質や雰囲気を感じ ている。 ②曲にふさわしいアルト リコーダーの奏法や身 体の使い方を理解し て、それらを生かした 音楽表現を工夫し、ど のように演奏するかに ついて思いや意図をも っている。	①曲にふさわしい音 楽表現をするため に必要な、アルト リコーダーの奏 法、身体の使い方 などの技能を身に 付けて演奏してい る。	①オペラの特徴 をその背景と なる文化・歴史 や他の芸術と 関連付けて理 解して、オペラ の魅力やよさ を味わって聴 いている。

5 題材観

オペラの特徴に関心をもち、その背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞をする。音楽をリズム、旋律の知覚・感受を深めながら曲想を味わい、曲にふさわしいアルトリコーダーの奏法、身体の使い方などを追求し、創意工夫して演奏する学習を展開する。

6 本題材における具体的な指導の工夫

(1) 思考・判断・表現させるための学習活動の工夫

ウ 必要な技能を身に付け表現する学習活動

- ・DVDを視聴することにより、リズム、旋律の特徴について感受させる。
- ・アーティキュレーションを複数提示し、リコーダーのタンギングの仕方、息の使い方について、曲にふさわしい音色や奏法を身に付けさせる。

(2) 主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫

ウ 学習状況に応じた指導

Aの状況と判断される生徒：【役割を与える】学級全体のリーダーとして、曲にふさわしいタンギングの仕方や息の使い方についてアドバイスさせる。

Bの状況と判断される生徒：【広げる】 学級全体での意見交換を参考にさせる。

Cの状況と判断される生徒：【提示する】 タンギングの仕方や息の使い方について、具体的に指導する。

7 指導計画

	ねらい	学習内容・【評価】	指導の工夫
第1時	オペラの特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、オペラの魅力やよさを味わって鑑賞する。	オペラの特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞する。 【観点アー① 観点イー①】	・曲の雰囲気と特徴について、リズム、旋律を意識して聴くようにする。
第2時	「凱旋行進曲」のリズム・旋律の特徴を知覚・感受する。	「凱旋行進曲」のリズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感知取る。【観点イー①】	・「凱旋行進曲」のリズム、旋律の特徴を感じ取れるように生徒への言葉掛けを工夫する。
第3時 (本時)	「凱旋行進曲」のリズム、旋律の特徴を生かしたアルトリコーダーの音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。	「凱旋行進曲」にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図をもつ。 【観点アー② 観点イー②】	・複数のアーティキュレーションを提示する。
第4時	「凱旋行進曲」にふさわしいアルトリコーダーの奏法、身体の使い方などを追求し、思いや意図をもって創意工夫して演奏する。	これまでに学習してきたことを生かして創意工夫して演奏する。【観点ウー①】	・「凱旋行進曲」にふさわしい音楽表現をするためのタンギングの仕方、息の使い方などを、グループ活動を通して追求する。

8 本時の展開（全4時間中の3時間目）

ア 本時の目標

凱旋行進曲のリズム、旋律の特徴を生かしたアルトリコーダーの音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

イ 本時における生徒の学習状況を判断するポイント及び学習状況に応じた指導の例

学習状況 評価規準	A：「十分に満足できる」 状況と判断する例	B：「おおむね満足できる」 状況と判断する例	C：「努力を要する」 状況と判断する例
【観点アー②】 ・曲にふさわしいアルトリコーダーの奏法などに関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 【観点イー②】 ・曲にふさわしいアルトリコーダーの奏法や身体の使い方を生かした音楽表現を工	＜観察にて＞ 曲にふさわしいアルトリコーダーの奏法などに強い関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ●判断するポイント ・アーティキュレーションを用いて曲にふさわしい音楽表現を工夫しようと、何度も繰り返して学習に取り組んでいる。 ▼指導の例 ・自ら積極的に取り組む姿勢についての価値付けをする。 ＜ワークシートにて＞ 感じ取った曲想を基にしながら、「凱旋行進曲」をどのように演奏するかについての思いや意図を具体的にもっている。	＜観察にて＞ 曲にふさわしいアルトリコーダーの奏法などに関心をもち、それらを生かして演奏する学習に取り組もうとしている。 ●判断するポイント ・アーティキュレーションを用いて音楽表現を工夫する学習に取り組んでいる。 ▼指導の例 ・他のアーティキュレーションも用いて試してみることが提案する。 ＜ワークシートにて＞ 感じ取った曲想を基にしながら、「凱旋行進曲」をどのように演奏するかについての思いや意図をもっている。	＜観察にて＞ 曲にふさわしいアルトリコーダーの奏法などに関心をもち、それらを生かして演奏する学習になかなか取り組めないでいる。 ●判断するポイント ・アーティキュレーションを用いて音楽表現を工夫する学習になかなか取り組めないでいる。 ▼指導の例 ・曲にふさわしいアーティキュレーションを比較しながら一緒に考える。 ＜ワークシートにて＞ 感じ取った曲想を基にしながら、「凱旋行進曲」をどのように演奏するかについての思いや意図をもつことができなかった。

夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	●判断するポイント ・アーティキュレーションを用いて、曲のリズム、旋律の特徴を生かしたタンギングの仕方や息の使い方について自分の考えを書いている。 ▼指導の例 ・学級全体のリーダーとして、曲にふさわしいタンギングの仕方や息の使い方についてアドバイスさせる。	●判断するポイント ・アーティキュレーションを用いて、タンギングの仕方や息の使い方について自分の考えを書いている。 ▼指導の例 ・感じ取った曲想を想起させながら、学級全体での意見交換を参考にさせる。	●判断するポイント ・アーティキュレーションを用いて、タンギングの仕方や息の使い方について自分の考えを書くことができなかった。 ▼指導の例 ・どのようなタンギングの仕方や息の使い方があるかを個別に助言する。
-------------------------------	--	---	---

ウ 本時の展開

時間	○学習内容・学習活動【評価方法】	指導上の留意点				
導入	○アルトリコーダーの指遣いを確認する。 ・「Hey Jude」を演奏する。 ○本時のねらいを知る。	・既習曲の中で、凱旋行進曲で使う指遣いを確認する。				
	アルトリコーダーの音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。					
展開	○リズム、旋律の特徴を生かして、「凱旋行進曲」をどのように演奏するかについての思いや意図をもつ。 ・楽譜を見て、アルトリコーダーの指遣いを確認しながら演奏する。 ・「凱旋行進曲」をCDで聴き、リズム、旋律の特徴を振り返る。 ・アーティキュレーションについて理解する。 観点ア②【観察】 アーティキュレーションの種類を理解し、「凱旋行進曲」の刻みや付点のリズム、三連符に合う演奏の工夫をしましょう。	・四分音符の刻み、付点のリズムや三連符に着目させる。 ・息の使い方、タンギングの仕方を試す。 ・タンギングの仕方や息の使い方について着目させる。				
	ーアーティキュレーションのキーワードカードの例ー <table><tr><td>スタカート奏法</td><td>レガート奏法</td></tr><tr><td>ポルタート奏法</td><td>ノンレガート奏法</td></tr></table>		スタカート奏法	レガート奏法	ポルタート奏法	ノンレガート奏法
スタカート奏法	レガート奏法					
ポルタート奏法	ノンレガート奏法					
開	・「凱旋行進曲」のDVDで視聴し、感じ取ったリズム、旋律の特徴を基にして、曲にふさわしい音楽表現を工夫する。 ・学級全体で意見交換をしながら音楽表現をさらに工夫し、「凱旋行進曲」をどのように演奏するかについての思いや意図をワークシートへ記入する。 ・ワークシートへ記入したことを基に、「凱旋行進曲」の音楽表現の創意工夫をする。 観点イ②【ワークシート】	DVDを観て、どんな場所でのような時を表現している音楽かをイメージしましょう。 ・思いや意図をアーティキュレーションなど、音楽表現の技能と結び付けて考えさせる。				
まとめ	○本時のまとめをする。 ・本時の学習活動を振り返る。	・ワークシートで学習の振り返りを行う。				

※ 生徒の変容

A の状況と判断した生徒：【役割を与える】学級全体のリーダーとして、曲にふさわしいタンギングの仕方や息の使い方についてアドバイスさせる。

→レガートタンギングを用い、息のスピードを上げて演奏すると付点のリズムが生かされると意見交換の場で積極的に発言し、学級全体のリーダーとして、付点のリズムをどのように演奏するかについての示唆を与えることができた。

B の状況と判断した生徒：【広げる】学級全体での意見交換を参考にさせる。

→レガートタンギングを用い、息のスピードを上げて演奏すると付点のリズムが生かされると考えた生徒の意見に触れることで、付点のリズムにアーティキュレーションを用いることなく演奏していた生徒も同じく試すようになり、付点のリズムをどのように演奏するかについてワークシートへ記入することができるようになった。

C の状況と判断した生徒：【提示する】どのようなタンギングの仕方や息の使い方があるかを指導する。

→自分の考えをワークシートへ書くことができなかった生徒に対して、スタカートタンギングは短く素早い息を使って演奏することを助言すると、学級全体での意見交換に耳を傾けるようになり、三連符のリズムにスタカートタンギングを用いて演奏したいとワークシートへ記入することができた。

実践事例④

研究の視点（１）イ （２）ウ【A 表現（３）創作 ア 第３学年】

1 題材名「沖縄音楽のリズムや音階を使った曲を創作しよう」（４時間扱い）

〔共通事項〕リズム、旋律、速度

2 題材の目標

- （１）沖縄音楽に関心をもち、リズムや旋律の特徴を生かし、表現を工夫して音楽をつくる学習に主体的に取り組む。
- （２）沖縄音楽のリズムや旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら音楽表現を工夫し、どのような音楽をつくりたいかについて思いや意図をもつ。
- （３）沖縄音楽のリズムや音階などの特徴を生かし、表現したいイメージを関わらせて、表現を工夫して音楽をつくる。

3 教材名 「沖縄民謡」より「谷茶前」 「わらべうた」より「子守唄」

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①沖縄音楽のリズムや旋律の特徴に関心をもち、即興的に音を出しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①沖縄音階のリズムや音階を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ②沖縄音楽のリズムや音階の特徴を生かしてどのような音楽をつくりたいか思いや意図をもっている。	①沖縄音楽の特徴を生かした音楽表現をするために、リズムによる創作、音の組み合わせ方などの技能を身に付けて音楽をつくっている。

5 題材観

本題材は、学習指導要領第２学年及び３学年の内容 A 表現（３）創作ア「言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。」を実現するための題材である。沖縄音楽から音階の特徴を生かし表現を工夫して旋律をつくる能力を育成するとともに、リコーダーで即興的に音を出しながら音の組み合わせ方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること（学習指導要領「内容の取扱いと指導上の配慮事項」ウ（５））を通して創作する楽しみや喜びを味わわせる学習をねらいとした。

6 本題材における具体的な指導の工夫

（１）思考・判断・表現する学習活動の工夫

イ イメージや表現意図をもつために判断する学習活動

図形楽譜やハンドサインを旋律やリズムの特徴と関連付けて、音の旋律のもつ方向性や音の幅を表現する。

（２）主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫

イ 生徒に実現目標や実現状況を認識させるワークシート

授業のはじめに本時のねらいと具体的な実現目標を示すことで、生徒自身が学習の目標を明確にし、見通しをもって学習に取り組ませる。

7 指導と評価の計画

	ねらい	学習内容・【評価】	指導の工夫
第1時	沖縄音楽の音階やリズムに関心を持ち、旋律やリズムの特徴を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。	沖縄音楽と子守唄のリズム・使われている音の比較によってリズム・旋律の違いを知覚・感受する。【観点ア①イ①】	沖縄音楽と子守唄に使われている音階を楽譜から取り出し、沖縄音階と陽旋法の音階の違いを知覚させる。
第2時	沖縄音楽のリズムや音楽の特徴に関心を持ち、即興的に創作する活動に主体的に取り組む。	「谷茶前」のリズムの中からリズムを選び、1人で沖縄音階の5音との組み合わせを考える。【観点ア②】	「谷茶前」のリズムを参考に、4小節の沖縄音階による簡単な音楽を創作する。
第3時 (本時)	沖縄音楽のリズムや音階の特徴を生かして、どのような音楽をつくりたいか思いや意図をもつ。	4人でリズムや音の組み合わせ方を工夫しながら順番を決め、16小節の音楽をつくる。【観点イ②】	つくりたい音楽のイメージを図形楽譜や言葉で表現し、表現意図をもたせる。
第4時	沖縄音楽の特徴を生かしたリズム、音の組み合わせ方などの技能を身に付けて簡単な音楽をつくる。	思いや意図を表現できるように、グループそれぞれの演奏を聴き合い、よさを味わい、助言し合う。【観点ウ】	思いや意図に合う音楽を創作するように、確認しながら発表させる。

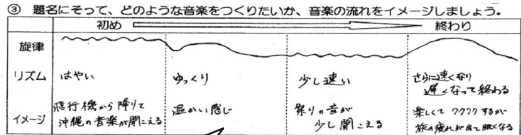
8 本時の展開（全4時間中の3時間目）

ア 本時の目標 一人一人がつくった旋律の組み合わせ方やつなぎ方を工夫し、音楽づくりを工夫し、どのように創作しようか思いや意図をもつ。

イ 本時における生徒の学習状況を判断するポイント及び学習状況に応じた指導の例

	A: 「十分に満足できる」状況と判断する例	B: 「ほぼ満足できる」状況と判断する例	C: 「努力を要する」状況と判断する例
【観点イ②】 沖縄音楽のリズムや音階の特徴を生かして、どのような音楽をつくりたいか、自分なりの思いや意図をもっている。	<観察して> 思いや意図を発言したり、他者の発言と自分との共通点や相違点を述べたりして音楽づくりの学習を深めている。リズムや音の組み合わせ方について全体を把握し、沖縄音楽の特徴を意識して音楽を創作している。 ●判断するポイント - 一人一人がつくった旋律を手拍子したり、リコーダーやキーボードで繰り返し音を出したりしながら確かめて組み合わせを考えている。 - グループの意見をまとめながら音楽を創作している。 ▼指導の例 - グループで出た様々な発言について共通点や相違点をまとめた内容に言葉で価値付けを行い、どのように生かしていくか、言葉で助言をする。 - 全体の音楽のつながりが自然な流れになっているか確認させる。 <ワークシートにて> 一人一人がつくった旋律の組み合わせ方やつなぎ方について、根拠を基に具体的に考え工夫している。 ●判断するポイント - 沖縄音楽の特徴を生かしたリズムや音の組み合わせ方について根拠をもった自分なりの意見を具体的に記入している。 ▼指導の例 - 工夫についての意見や根拠に価値付けを行い、称賛する。	<観察して> 思いや意図をもって他者に伝えようと発言し、音楽づくりをすることはできるが、他者の発言を聞いてそれを基に活動を広げていくことはできなかった。 ●判断するポイント - 一人一人がつくった旋律について理解し、自分の思いや意図を発言している。 - 手拍子やリコーダー、キーボードで音を出して試しながら、音楽を創作している。 ▼指導の例 - 実際にリコーダーやキーボードを使って音に出して音楽づくりについて考えていくよう提案する。 <ワークシートにて> 一人一人がつくった旋律の組み合わせ方やつなぎ方について、思いや意図をもっている。 ●判断するポイント - 沖縄音楽の特徴を生かしたリズムや音の組み合わせ方について自分なりの意見が書ける。 ▼指導の例 - 音の組み合わせ方やつなぎ方の工夫についての根拠を考えさせる。	<観察して> 思いや意図をもつことは難しく、グループ活動においてはほとんど発言していない。実際に手拍子したり、リコーダーやキーボードで音を出したりしながら音楽づくりを行うことはできなかった。 ●判断するポイント - グループでの話し合いの際に発言をしない。 - リズム打ちやリコーダーでの音楽づくりをしない。 ▼指導の例 - つくりたい音楽についての自分の意見を整理させ、言葉の例から近い言葉を選択させる。 <ワークシートにて> 一人一人のつくった旋律の組み合わせ方やつなぎ方について、思いや意図をもてない。 ●判断するポイント - 組み合わせ方やつなぎ方についての自分の意見が記入できていない。 ▼指導の例 - 組み合わせ方やつなぎ方について図形楽譜を記入させて考えさせる。

ウ 本時の展開

	○学習内容 ・ 学習活動	◇指導上の留意点 【評価規準】・(評価方法)						
導入	○ 既習事項を確認する。 ・「谷茶前」の一部を歌唱し、特徴的なリズムを手拍子で打ち、確認する。	◇沖縄のリズムや使われている音の特徴を確認する。 ◇本時のねらいを確認する。 ◇思いや意図をもつことを強調する。						
展開	○ 一人一人の旋律を確認する。 ・一人で創作した旋律をリコーダーで紹介し合う。 ○ 4人のグループで創作する。 ・一人一人がつくった旋律のイメージから題名を決め、どのような音楽をつくりたいか、思いや意図をもつ。 ・グループでそれぞれのイメージを発表し合い、音楽の組み合わせの順番を考える。 ・イメージに合うリズムや音を考えながら曲の順番を決めていく。 ・リコーダーやキーボードでつながる感じ、終わる感じなど考えながら一つの音楽にする。  キーボードで旋律をつなげてみよう。	◇イメージを形容する言葉の例が書いてあるヒントカードを配布して、思いをもたせる。 沖縄音楽のイメージをもたせるヒントカードの例 <table border="1"> <tr> <td>穏やかな</td> <td>活気のある</td> <td>暖かい</td> </tr> <tr> <td>弾んだ感じ</td> <td>ワクワクする感じ</td> <td>青い海</td> </tr> </table> ◇音楽の流れを図形楽譜で記入し、表現意図をもつ。【観点イ②】(ワ・観)  ③ 題名にそって、どのような音楽をつくりたいか、音楽の流れをイメージしよう。 イメージする旋律を、図形楽譜に書きましょう。 音楽のイメージをハンドサインで考えても分かりやすいですよ。	穏やかな	活気のある	暖かい	弾んだ感じ	ワクワクする感じ	青い海
穏やかな	活気のある	暖かい						
弾んだ感じ	ワクワクする感じ	青い海						
まとめ	○本時の学習活動を振り返る ・次回の発表に向けて表現したいことをワークシートに記入する。 ・今日のまとめとしてワークシートに記入する。	〈学習の振り返り〉次のつから一つを選択する。 ○実際に音に出しながら旋律のつながり方や組み合わせ方について説明したり、意見を調整したりして、どのように音楽をつくるか思いや意図をもつことができた。 ○図形楽譜を書いたり、旋律をつないで組み合わせたりして、どのように音楽をつくるか思いや意図をもつことができた。 ○旋律をつないで組み合わせたりして、どのように音楽をつくるか思いや意図をもつことが難しかった。						

※ 生徒の変容

視点(1) イ イメージや表現意図をもつために判断する学習活動

イメージしたリズムや旋律の流れを図形楽譜と言葉で表すことにより、一人一人の旋律の組み合わせ方やつながり方についてイメージや表現意図に結び付けることができた。また、図形楽譜を見ながらハンドサインで音の高低やリズム、速度を具体的に考えることができた。

視点(2) イ 生徒に実現目標や実現状況を認識させるワークシート

授業の導入部分で、教師が生徒に本時の実現目標を示すことによって、生徒は目指す学習状況を具体的に把握することができ、学習活動がより意識の高いものとなった。

授業中において教師が判断した生徒の学習状況の評価と〈学習の振り返り〉における生徒の自己評価の80%は一致しており、19%は教師の評価より自己評価の方が高く、1%は教師の評価より生徒の自己評価の方が低いという結果となった。

５ 学習指導要領の指導事項と指導する〔共通事項〕を見通した３年間の指導計画の作成

年間指導計画例【第１学年】

生徒が主体的に学習する力を身に付けるために、３年間を通じた共通事項や学習活動を関連させ、学習内容の構成や配列等に配慮した年間指導計画例を作成した。

- ・ 共通事項は第１学年から第３学年までの発達段階に応じて、学習する要素を絞るように設定した。
- ・ 表現領域と鑑賞領域または複数の表現領域と関連付けて学習することにより、効率よい指導ができるように設定した。

第1学年 目標			① 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。									
			② 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。									
			③ 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。									
時間			4	4	5	4	6	4	4	4	5	5
題材名			歌詞の内容と曲想を感じ取って	曲想の変化を感じ取って	声部の役割を生かして	言葉と旋律の関わり	混声三部合唱へのステップ	曲想を豊かに感じ取って	郷土の民謡や芸能の特徴	アジアの音楽の魅力	ハーモニーの美しさ	様々な曲想の表現
主な 学習内容			歌詞の内容や曲想の変化を感じ取る。	曲の構成と曲想との関わりを感じ取る。曲想にあった奏法を身につける。	声部の役割をいかし、反復、変化、対照などの構成を工夫して創作する。	日本語の発音や曲想に応じた発声を工夫する。	声部の役割や歌詞の内容を感じ取る。	声の幅広さや曲想の変化を感じ取る。	箏の歴史を理解し、奏法を身に付け、特性を生かした旋律を創作する。	アジアの楽器の音や音楽の特徴を感じ取る。	ハーモニーを生かした表現を工夫する。リコーダーの奏法を身に付ける。	歌詞の内容を理解し曲想に応じた歌唱表現を工夫する。
教材例			青空にのぼろう Forever 校歌	リコーダー 春第1楽章	アカペラ 言葉アンサンブル	浜辺の歌 夏の思い出 赤とんぼ	パフ マイバラード	My Voice 魔王	さくらさくら 六段の調	アジア 諸国の音楽	リコーダー エーデルワイス	カリブ 夢の旅 全校合唱
A 表現	歌 唱	ア	○				○				○	○
		イ				○	○	○				
		ウ	○		○							○
	器 楽	ア		○						○		
		イ								○		○
		ウ										○
	創 作	ア			○							
		イ								○		
B 鑑賞		ア	○	○				○				
		イ		○						○		
		ウ				○			○	○		
共通 事項		音色		●		●		●	●	●	●	
		リズム			●					●		
		速度										●
		旋律	●			●	●		●			●
		テクニク			●		●				●	●
		強弱	●					●				
		形式			●							
		構成		●						●		

年間指導計画例【第2学年】

第2学年 目標			① 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 ② 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 ③ 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。								
時間			3	5	3	5	4	5	4	3	3
題材名			曲想の変化の理解と表現の工夫	音楽の構成を工夫して	歌詞を大切にしたい表現の工夫	形式や構成を生かした音楽	日本の歌の美しさを求めて	混声三部合唱へのステップ	舞台芸術と音楽	雅楽の魅力	様々な曲想の表現
学習内容			曲想の変化を感じ取り、曲想に応じた歌唱表現を工夫する。	声部の役割や構成を生かしながら創作活動を行う。	歌詞の内容や言葉の発音を理解し、曲想に合った歌唱表現を工夫する。	モチーフの使い他や形式の仕組みに着目し名曲を味わって鑑賞する。	日本語の美しさや発音を生かした発声や歌唱表現を工夫する。	声部の役割を理解して混声合唱に取り組む。歌詞の内容や曲想を理解する。	舞台芸術の特徴を感じ取る。場面や曲想にあった歌唱・演奏法を工夫する。	雅楽の楽器の音色や音楽の特徴をつかむ。特徴にあった演奏法を工夫する。	歌詞の内容や曲想を理解して、歌唱表現を工夫する。
教材例			夢の世界を語り合おう	翼をください リズムアン サンプル カノン	夏の日 贈りもの 花の街	小フーガ 交響曲第5番	早春賦 荒城の月	時の旅人 花の季節	アイーダ 勸進帳	越天楽	ふるさと 全校合唱
A 表現	歌 唱	ア	○		○		○	○			
		イ					○		○		
		ウ	○	○				○			○
	器 楽	ア							○		
		イ		○							○
		ウ				○					
	創 作	ア									
		イ		○							
B 鑑賞	ア			○	○						
	イ				○						
	ウ					○		○	○		
共 通 事 項	音色				●						●
	リズム			●					●		
	速度							●			
	旋律		●		●		●	●	●	●	●
	テクスチャ					●	●	●			
	強弱										●
	形式			●		●					
	構成		●	●		●			●	●	

年間指導計画例【第3学年】

第3学年 目標			① 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 ② 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 ③ 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。								
時間			3	3	5	2	4	6	4	3	5
題材名			日本の歌の美しさ	曲種に応じた歌い方の工夫	日本の伝統音楽の味わい	情景や曲想の変化を感じ取って	総合芸術に親しもう	混声四部合唱へのステップ	日本民謡の味わい	曲の特徴を生かして	様々な曲想の表現
学習内容			日本語の美しさや言葉の発音の特徴を感じ取り、曲想に応じた歌唱方法を工夫する。	世界各国の楽器の音や音楽の特徴を感じ取る。	日本の伝統音楽の歴史や文化を理解し、曲想に応じた発声や発音を工夫して歌唱表現する。	場面に応じた曲想の変化を感じ取り、歌唱表現に生かす。	総合芸術の歴史や文化を理解し、場面ごとに変わる曲想などを感じ取る。	声部の役割を理解し、四声部の豊かなハーモニーを生み出す歌唱表現を工夫する。	日本民謡の音や音楽の特徴を感じ取り、構成や形式を工夫しながら創作活動に取り組む。	イタリア音楽の歴史や文化を理解し、曲想に応じた言葉の発音を工夫して歌唱する。	歌詞の内容を理解し曲想に応じた歌唱表現を工夫する。
教材例			花	世界各国の音楽 ポピュラー音楽	羽衣能・狂言・文楽	ブルタヴァ	白鳥の湖 フィガロの結婚	合唱曲 大地讃頌	日本民謡 旋律づくり	帰れソレントへ オーソレミーオ	卒業式歌 全校合唱
A 表現	歌唱	ア	○			○		○			○
		イ	○	○	○					○	
		ウ						○			○
	器楽	ア							○		
		イ									
		ウ									
	創作	ア							○		
		イ									
B 鑑賞		ア				○				○	
		イ			○				○		
		ウ	○	○			○			○	
共通事項		音色		●	●	●	●			●	
		リズム	●						●	●	
		速度		●		●					●
		旋律	●	●	●		●	●	●	●	●
		テクスチャ						●			
		強弱				●					●
		形式	●		●				●		
		構成			●		●	●	●		

Ⅲ 研究の成果と課題

本研究では、生徒が音や音楽のよさを感じ取り、自ら表現するための指導法の工夫及び評価の工夫について研究した。研究の視点を「思考・判断・表現する学習活動の工夫」と「主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫」とし、生徒が主体的に知覚・感受したことを支えとして思考を深めることができたか、教師にも生徒にも明確な評価方法について検証授業を行い、実践結果を分析・考察してきた。また学習指導要領の指導事項と指導する〔共通事項〕を見通した3年間の指導計画を作成した。その結果から本研究の成果と課題を次にまとめる。

1 成果

(1) 思考・判断・表現する学習活動の工夫

- ・音楽を形づくっている要素を知覚・感受させたり、イメージや表現意図をもたせたりするために、

- ① 音楽を形づくっている要素をしぼる。
- ② 音楽を形づくっている要素の特徴がよく表れている部分に着目させる。
- ③ キーワードカードやヒントカードを提示したり、図形楽譜に書かせたりする。

などの指導の工夫をすることで、生徒が自ら思考・判断できるようになった。

- ・イメージや表現意図を音楽表現に結び付けるために必要な技能を指導し、身体の使い方を意識させることにより、生徒が主体的に音楽表現に必要な技能を獲得するための学習を行うことができた。

④ 主体的に学習に取り組ませる指導と評価の工夫

- ・学習する題材について、あらかじめ観点別学習状況について、判断するポイントと指導の例を考えておくことで、より明確で具体的な指導を行うことができた。
- ・一人一人に応じた指導を行うことを意識することにより、生徒それぞれが活躍する機会をつくることができた。
- ・ワークシートに学習のねらいと実現目標を示すことにより、生徒が学習のねらいの実現に向けた見通しをもつことができたため、自ら学ぼうとする主体的な学習意欲を高めることができた。

⑤ 学習指導要領の指導事項と指導する〔共通事項〕を見通した3年間の指導計画

- ・年間指導計画例を作成することにより、表現領域と鑑賞領域を関連させた題材設定が可能になるなど、限られた時間数のなかで、効率よい指導につながる研究ができた。

2 課題

- (1) イメージや表現意図をもたせるための視点や言葉の例を、さらに他の題材や共通事項においても考えていく必要がある。
- (2) 学習の具体的な実現目標と実現状況を題材ごとに設定し、生徒の実態に応じて改善していくことが大切である。
- (3) 年間指導計画については、実施していく中で生徒の実態に応じてその都度振り返り検証し、改善していく必要がある。

平成24年度 教育研究員名簿

中学校・音楽

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
品 川 区	大 崎 中 学 校	主任教諭	小林 千歌子
杉 並 区	高 南 中 学 校	教 諭	伊 藤 里 美
江 戸 川 区	葛西第三中学校	教 諭	千 葉 信 宏
小 平 市	上 水 中 学 校	教 諭	辻 香 保 里
八 王 子 市	甲ノ原中学校	主任教諭	◎ 古 川 飛 鳥

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
東京都教職員研修センター研修部教育開発課

統括指導主事 岩崎 治彦
指導主事 山根 まどか

平成 2 4 年度
教育研究員研究報告書

中学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録

（平成 2 4 年度第 2 4 3 号）
平成 2 5 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話番号 (03) 5320-6882

印刷会社 株式会社 イマイシ